エンパワーするNGO
YWCA
The Young Women's Christian Association
神戸YWCA
2・3
Feb./Mar.2016
2015 年度 神戸 YWCA 標語聖句　何事も愛をもって行いなさい（コリントの信徒への手紙 16 章 14 節）
www.kobe.ywca.or.jp

YWCA
（ワイ・ダブリュー・シー・エー Young Women's Christian Association）は…
キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際 NGO です。

だれのための越年か

鍋谷 美子
（神戸 YWCA 夜回り準備会代表）

今年も 12/28 から 1/5 の年末年始の期間、三宮・東遊園地で越年越冬活動「冬の家」が開催された。神戸 YWCA 夜回り準備会をはじめ、日常的に野宿している人の支援をしている各団体が連日の炊き出しを担当したり、生活相談、法律相談、追悼、もちつき・青空カラオケなどの交流を行っている。震災後の神戸では、避難所のすぐそばの路上で亡くなる人がいたり、避難所での（行政と市民両方による）「ホームレス」差別があったことなどから、誰も死なない年越しを、と宿泊もできるテントを建てて 1995 年から 1996 年を迎えた。それ以来ずっと行われている活動だ。

こういった越年の取り組み自体は、全国各地で行われている。派遣村が話題となり、メディアが一斉に報道した 2000 年代の前も後もだ。そもそもは日雇い労働者たちが集まる寄せ場で、仕事もなくなり役所も閉まる年末年始の時期になんとか年を越そうと始まったのが、越年・越冬活動（文字通り「闘争」とも言う）だ。80 年代頃には、野宿している人たちはほぼ寄せ場の周辺にしか見られなかったが、90 年代後半に入って、寄せ場のない地域の都市部でも野宿する人たちが目立つようになり、一気に社会問題と捉えられるようになった。

野宿している人の数自体は、神戸では 1990 年代後半に市内で 500 人ほど（神戸の冬を支える会調べ）になったときをピークに減り続け、現在は 70 人ほどとなっている。これは喜ばしいことといえるかもしれないが、実際はどうだろうか。

「貧困」という言葉が聞かれるのがそれほど珍しくなくなっている。今や、格差があるのは当たり前だし、非正規雇用も当たり前、フリーターからは簡単には脱却できず、30 代 40 代の非正規職で実家暮らしの人々が、親の死後にどうやって生活していくかという問題もざらにある。家があっても「貧困」の中生活している人は増えていると感じる。

越年の実行主体である「神戸の冬を支える会」では、数年前から、家がない人が生活保護を受けられるようにするためのつなぎの事業を行政からの委託で行っている。そこでは、家がないということだけを唯一の共通項とした、未成年、女性、母子、父子、出所者、などさまざまな人たちがやって来ている。知人宅やネットカフェ、刑事施設、虐待や DV などがあり不安定な家族関係の家から出てきた、いわば、野宿になる一歩手前の人たちだ。そういう人たちは、これまでの野宿している人が集まるようなある意味セーフティネットとして機能していた場所にもつながらない。
越年の場は、そもそも炊き出しで飢えをしのぐだけではなく、そこで出会う人間関係、生きるための情報が得られる場所でもあった。しかしそこにもつながれないなら…越年の在り方自体が、変わっていくべきなのかもしれない。

そのためには、越年の位置づけを、主催する側の意識から変えていく必要があるだろう。困っている人を助ける、というチャリティー的な視点ではなく、なぜ「困っている」状態に人がおかれるのか、その根本原因を解決するにはどうしたらいいか、さらにこの「問題」は誰のものなのかを常に考えなければならないと思う。自分たちがつくってきたこの社会の「問題」であり、自分たちもいつ「困る」ことになるか分からない、もしくはすでに困っているという認識こそが、個人的には活動の原点である。そうして、自分たちのこととして、越年に取り組みたいと思う。

神戸 YWCA クリスマス

今年の神戸 YWCA のクリスマス会は 12 月 5 日（土）の午後、今年の標語聖句「何事も愛をもって行いなさい」をテーマに行われた。

クリスマス会前半の礼拝は、長年釜ヶ崎で日雇い労働者のための活動をされている入佐明美さん（大阪建設労働者生活相談室ボランティアケースワーカー）にお話しいただいた。その後は、グループごとに入佐さんのお話について感想を語り合った。後半の祝会は手作りのケーキを楽しみ、隣同士で会話が弾み、最後に 35 人それぞれが思いを書いたオーナメントでクリスマスツリーを形作った。

入佐さんは若い時、ネパールで医療活動をされていた岩村昇医師の働きに感動。「ネパールこそ愛をもって活動するところ」と確信し、看護師の資格を取り、行く機会を待っておられた。しかし、その岩村さんから「釜ヶ崎行き」を勧められ、それもネパールの準備だと考え、釜ヶ崎で活動を始められた。それから、一度もネパールへ行くこともなく、活動は 35 年となり、今は「釜ヶ崎が私のネパールだ」と言われる。

日雇い労働者の方への対応は「こんにちは、おじさん」の声掛けで始まる。彼らから「ねえちゃん、わしらの話を聴いてくれておおきに。こんなんはじめてや」。こうして耳を傾けることで、彼らの心が開かれていく。釜ヶ崎での活動を通して、入佐さん自身も変わり「自己を愛することなくして他者を愛することはできない」の思いが今の活動の支えになっている。

お話を通して、「ではわたしたちのネパールはどこか？」とあらためて問われた思いである。「私たち一人ひとりが大切な存在だ」と言われたイエスの誕生を思うクリスマス会であった。（野村 晴美）

神戸市民クリスマス

12 月 11 日、日本キリスト教団神戸教会で、第 57 回神戸市民クリスマスが開かれた。参加者は礼拝 250 人、こどもプログラム 80 人。テーマは「心あたたまるクリスマス」。上内鏡子牧師（神戸イエス団教会）を通して、全ての人に贈られている平和と希望のメッセージを聴き、共に聖歌を歌い、クリスマスの喜びの時を過ごした。神戸 YWCA はホットコーナーを担当。各教会の婦人の方と協力し、参加者に温かい飲み物、食べ物を提供し、体も温めてもらった。（野村 春美）

2015 年度 クリスマス献金送付先

今年も多くの皆様がクリスマス献金をお捧げくださいました。感謝してご報告いたします。（キリスト教基盤部）

入佐明美さんの働きのため、女たちの戦争と平和資料館、釜ヶ崎喜望の家、原爆の図 丸木美術館、神戸いのちの電話、神戸の冬を支える会、W.S. ひょうご、被災地 NGO 協働センター、日本 YWCA、神戸 YWCA

以上 10 団体（敬称略）

グループの活動を紹介します！

ちゃいやあらんど

「おはようございます」今日も子どもとお母さんの声が分室に響く。たいていお母さんより子どもたちが先に走りこんできて、まずはおもちゃの棚の前で今日の遊びの品定めから1日が始まる。

「ちゃいやあらんど」は月2回の水曜日、11時頃から未就園児（午後から幼稚園児）とお母さんが、三々五々集まってくる。自由に遊んで、ランチを食べ、お茶を飲み、思い切りおしゃべりして、時々「作ろう会」と称しておやつやお母さんたちの興味のあるものを教えあって楽しんでいる。

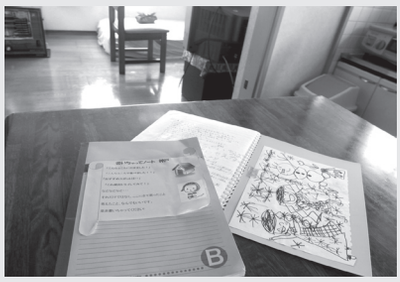
また今年もゴスペルコンサート、ハロウィンや秋祭り、クリスマスなど季節ごとにプログラムを企画、地域との交流などができた。社会の子育て支援の状況も随分変わってきたし、育メンや育休パパなど新しい言葉が定着する時代になった。それでも子育ては楽しい時ばかりではなく、時に孤独になるもの。インターネットの普及もあり情報は山のようにあるけれど、一緒に悩んだり、笑ったりできる友達があることは大きな支えと喜びにつながる。誰かの手助けがほしい時もある。

「ちゃいやあらんど」は子どもを預かる場所ではなく、お母さんと一緒に遊びに来てもらう場所。そしてお母さんに一息ついてもらう場所。子どもたちは、自称「ばあば」や「じいじ」こと分室ボランティアたちに見守られ、若いママたちはひと時おしゃべりに夢中になっている。

沖縄地方の「ひとりじゃないよ」という意味の方言から名付けられた「ちゃいやあらんど」は、2000年夏、子育ての社会化を目指し、子育て中のお母さんを中心に子育て中の誰もが気軽に集える場として活動を開始した。この15年間紆余曲折いろいろな時期があったが、「人・遊び・情報」との出会いの場として「みんなで子育てを楽しもう」という変わることのない思いを大切にしている。

（宮田 泰子）

福島の人の「もうひとつの家」として



セカンドに置いてある「書いちゃってノート」
利用者の方の思いがいっぱい残されています。

この冬、セカンドハウスでお迎えしたお母さんから、以下のメールをいただきました。

「息子が発達障がいで、他の方とご一緒する保養では、参加しても主催者さんにも気を遣いながらで疲れます。しかし今回は精神的に非常に楽でした。滞在中、子どもたちの体に放射能を入れずにすんだこと、外で沢山活動できたことが本当にありがたかったです」

何もない自由が良かったと言っていただいたようで、はっとしました。あくまでセカンドハウスは「もうひとつのあなたの家」。利用者の方が何よりもほっとしていただけるように場づくりをしていこうと再確認しました。

昨年秋にこのコーナーでアピールさせていただいた「セカンドサポート募金」に、多くの方々から寄付金をお届けいただきました。また、大和証券福祉財団の助成金も得られたことから、神戸セカンドハウスにガス給湯器を設置できることになりました！ご協力くださった方お一人ひとりに心から感謝をいたします。なお、今回の寄付金はガス給湯器はもちろんのこと、神戸セカンドハウスの整備・運用（備品設置、寝具洗濯代、水道光熱費など）に用いさせていただきます。本当にありがとうございました！　（西本 玲子）

どうなってるの、今の日本!?

言ってみよう、素朴なギモン！2

知らないと大変！ マイナンバー制度

私たち一人ひとりが主体的に考えようという趣旨の「どうなってるの、今の日本!?」シリーズ。第２弾は「マイナンバー制度」。運営委員会・平和活動部共催で 12 月 18 日（金）、社労士福井敏光さんをコメンテーターに迎えて実施された。参加者は 15 人。

仕組みの学習に続き、私たちはどのように対応すればいいのか、個々の例を出し合って意見交換できた。以下参加者の感想から。

「普段、漠然と不安を持ち、釈然としないまま何となく流れに組み込まれてしまうのではと思っていたが、皆さんの意見や具体的な例を聞き、内容がはっきりしてきた。立ち止まって考えるいい機会になった。」

「個人個人が自分の立場から発言していてよかった。少人数だからできたことだと思う。」

「皆と共有できたのはよかった。今年までと来年からとが違うことがわかってよかった。」

この制度は、内容が十分に知らされているとはいいがたく、わからない点が多い。これからの打ち出し方を私たちがじっくりと観察し、主体的に関わっていくことが肝心だ。「自分で考えないとね」という参加者の意見が印象的だった。　（斎藤 明子）

たてごと

冬のこの時期に思い出す。私は当時神戸ＹＷＣＡの職員だった。

地震もなく住みよく、美しい町と思っていた神戸に阪神大震災が起きて一夜にして町は破壊され、被災地に変わってしまった。すぐ神戸ＹＷＣＡは救援センターを立ち上げ、全国のボランティアの方々とともに力を合わせての救援活動。私は自宅が全壊。仮設住宅を申し込むが落選。二進も三進もいかず、紆余曲折の日々を送っていた。気弱になっていた時、多くの方々からの温かい言葉には随分と勇気づけられた。

やっと安心して暮らせる居住地に落ち着けた時は震災から数年の月日が過ぎていた。

定年後は会員として気さくな方々と部会作業を毎回楽しんでいる。春からは新事業の小規模保育所の開園、若い人たちと子どもの笑顔あふれる未来へつながるようにと願っている。

他にも居住地域の行事やボランティアグループのお手伝い。この間は幼稚園の防火訓練に行った。消防士から避難訓練の標語『おはしも』について聞かれ「おさない、はしらない、しゃべらない、もどらない！」と即答する園児たち。消防車の装備説明も目を輝かせて聞いていた。子どもたちの防火訓練の真剣さに「しっかりしているなぁ」と感心した。

これからも出会いを大切にしながら無理せず自分が出来るお手伝いを続けたいと思っている。

（川関 敏恵）

神戸 YWCA への おさそい

（注）場所の記載のないものはすべて神戸 YWCA 会館

●わいわい科学クラブ（小学生対象）
「べっこうあめ、リンゴあめをつくろう」
2 月 20 日（土）
① 10 時～ 11 時 15 分② 11 時 45 分～ 13 時
③ 13 時 30 分～ 14 時 45 分（3 部制）
場所　神戸 YWCA 分室
参加費　1 回 200 円

●文学講座
『徒然草』を読む
2 月 16 日（火）・3 月 15 日（火）
13 時 30 分～ 15 時 30 分
参加費　500 円（1 回）

●3 月のアフタヌーン・ティー
「お茶と交わりの会」
3 月 1 日（火）13 時 30 分～ 16 時
参加費　500 円

●ピースブリッジ学習会
「生きにくい社会の構造―安保、TPP、そして食」
3 月 18 日（金）18 時 30 分～ 20 時 30 分
場所　こうべまちづくり会館 2 階ホール
講師　藤原辰史さん（京大人文科学研究所准教授）
参加費　500 円

●イースター早天礼拝
3 月 27 日（日）7 時～ 8 時
場所　神戸東遊園地（神戸市役所南側）
＊雨天の場合は神戸 YMCA ファミリーウェルネスセンター（神戸市中央区脇浜町 2-10-21、Tel:078-241-7202）

分室わいわいバザー！
日時　3 月 26 日（土）12 時 ~15 時
場所　神戸 YWCA 分室（中央区坂口通 5-2-16）

第 96 回
神戸 YWCA 定期会員集会
3 月 12 日（土）
10 時～ 15 時
神戸 YWCA 会館 5 階チャペル
午後は「新事業・小規模保育を知ろう！」

学院だより

日本語コースでは、12 月 22 日に委託訓練「日本語・就業力スキルアップコース」が終わり、訓練生 15 人全員が修了した。1 月には神戸学生青年センター、中央区役所で「やさしい日本語」の出前授業を実施。次年度夏の「勉強に役立つ日本語クラス」実施のための「共感寄付」には、多くの方にご協力いただいている。寄付の受付は 3 月 18 日まで。引き続きよろしくお願い致します。

日本語教師養成コースでは、日本語教師実習講座（中級）を 1 月 16 日から開講した。

（原田 雅子）

まごの手だより

介護を取りまく情勢は大きく変化しており、高齢者の独居、認知症、老々介護の世帯が増え、家族が高齢者の介護を担うことは厳しくなっている。最近の制度改正では特別養護老人ホームの入所が「要介護 3」以上になり、また、病院、老人保健施設等からの早期在宅復帰の流れにより入院後すぐに自宅へ帰ってくるケース等、重度の状態で在宅に戻られる利用者が増え、医療の連携や医療の知識が必要となってきている。ターミナルや看取りケアも必要になってくる。

まごの手では 1 月 23 日、2 月 20 日、地域福祉コースと合同で在宅ホスピス研修を開催する。「最期まで住み慣れた我が家で」を目標に質を高め活動していきたいと思う。

（松田 恵美子）

分室だより

わいわいランチは、高齢の方、病後などで食事づくりが難しい方などを対象にお弁当を配達する活動です。ランチのこだわりは「手作りの家庭の味」「栄養価を考えたバランスのとれた献立」「見守りも兼ねた直接の手渡し」など。高齢になられて一人暮らしとなっても、住み慣れた地域で暮らし続けることのお手伝いになればと、18 年間継続してきました。ランチは一食 600 円。詳しくは分室までお問い合わせください。

（西本 玲子）

運営委員会報告

（12 月）【報告】3 市 Y 交流会▶神戸 Y クリスマス▶新しい活動づくりワークショップ▶指名委員・運営委員推薦のお願い【議事】運営委員会の振り返り▶ 2016 年度活動方針・目標を決定▶次期日本 Y ミッション・ビジョンについて神戸 Y で検討。

（1 月）【報告】小規模保育園開設のための本館改装日程の確認▶マイナンバー勉強会【議事】各部の 2016 年度事業計画案を検討▶定期会員集会の議事を検討（組織図変更・運営委員定数見直し・会則変更）▶講演会（スティーブン・リーパーさん・落合恵子さん）賛同を確認。

（鶴崎 祥子）

理事会報告

12 月 26 日（土）第 4 回理事会開催。小規模保育事業設備工事の入札公告について決議。寄附金取扱規程及びパートタイム職員就業規則制定。

（寺内 真子）

賛助員

島本 健二　田邊 誠
中村 昭子　飛田 雄一
平山 嘉廣　（敬称略）

編集後記

2016 年がスタートした。課題山積の年明け。日本はいったいどこに進もうとしているのだろう。しっかり見守りたいと思う。

（H・N）

世界祈祷日

「世界祈祷日」は毎年 3 月第 1 金曜日に、教派を超えて和解と平和を求める祈りの日として世界中で守られています。

日時　3 月 4 日（金）13:30 ～ 16:00
主題　「子どもを受け入れなさい、そしてわたしをも」～キューバからのメッセージ～
会場　日本聖公会 神戸聖ミカエル教会（神戸市中央区下山手通 5-11-1）

ゴーフル®
いいものは
時代をこえて
生き続けます
神戸風月堂
本社　神戸市中央区元町通3丁目3-10　TEL(078)321-5555
URL http://www.kobe-fugetsudo.co.jp

Sano Sosai
（有）佐野葬祭
代表取締役 佐野 睦（日本基督教団 甲東教会会員）
0120-592-392（24 時間受付）
宗教を問わずあらゆるお葬儀をプロデュースさせて頂きます
尼崎市潮江 4 丁目 2-2
URL: http://sanosousai.com